

令和7年度 JOC国際人養成アカデミー（JISLA） 開催要項

1. 趣 旨 本アカデミーは、国内スポーツ組織が国際スポーツ組織との関係を強化することへの支援を目的にした、人材の国際力向上を図る人材育成事業である。本事業を通じて、所属する国内スポーツ組織を代表して国際スポーツ組織において影響力を発揮し、所属組織のプレゼンスを高めることができる人材の育成を目指す。
2. 事業名 JOC 国際人養成アカデミー（JOC International Sports Leader Academy / JISLA）
3. 主 催 公益財団法人 日本オリンピック委員会
4. 後 援 スポーツ庁（予定）
5. 受講者
 - （1）本会加盟団体から推薦される下記の者
将来、所属団体を代表して IOC、OCA、IF/AF 等の国際スポーツ組織における役員や専門委員会委員（審判、競技ルール、医事、コーチング、マーケティング等）、審判、競技役員、事務局員、あるいは国際競技大会の運営ディレクター等に就任し、その団体や組織にて影響力を発揮していくことを目指す具体的な計画がある者。あるいはそれを目指して研鑽を積むことができる者。
所属組織の国際化を推進する者、国際スポーツ組織とのコミュニケーションの窓口となる者、あるいは国際スポーツ組織の役員や専門委員会委員への就任を目指す候補者を様々な支援する者などの、国際関係担当者。
 - （2）その他本会が認めた団体から推薦を受けた者
＊情報保障等のサポートが必要な場合は、受講希望者調書の備考欄にご記入の上ご相談ください
6. 受講要件
 - （1）受講者を推薦する団体は、当該団体の IF/AF ポジション獲得計画を含む国際戦略を策定しており、推薦される受講希望者は、その国際戦略の中に位置付いていること。策定された戦略は、別添様式にて提出しなくてはならない。
 - （2）別途示す研修会でおこなわれる講義の、70%以上に出席できること。
推薦団体の業務等によりやむを得ず欠席し、修了に必要な出席日数にわずかに足りない場合は、補講などで補足する場合がある。
 - （3）英語力はおおむね CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）B1 レベル以上の者。＊後述する 13. その他（3）受講者推薦者に理解いただきたいこと、も参照のこと
 - （4）パワーポイント等のプレゼンテーションツールで資料作成が可能な者。
 - （5）受講にあたり、パソコンまたはタブレット端末等の情報機器を持参でき、使用できる者。
7. 受講定員
 - （1）定員：新規受講者は 30 名とする
 - （2）受講者の推薦は、本会加盟団体は原則 1 団体あたり 2 名以内、それ以外の団体からは原則 1 名を推薦できる。
①受講申込締め切り時点で定員に満たない場合、本会加盟団体からのみ若干名の追加推薦をする

ことができる。

②受講申込締め切り時点で定員を上回っていた場合、以下の基準で本会が受講者を決定する。

- ✓ 国際スポーツ組織での活動実績（予定も含む）
- ✓ 提出される推薦団体の国際力強化戦略調書（提出書類③）の内容
- ✓ 受講希望者の語学力アセスメントの成績等

8. 申込方法 本会加盟団体に送付される申込み用紙にて、令和7年3月25日（火）までに申し込むこと。
この期日を超えての参加希望は、受講定員に達していない場合に限り個別相談に応じる。

9. 受講料 受講料は15万円（税込）。受講開始前に全額納入すること。
受講料に含まれるもの：教材費、受講に必要な宿泊及び食事。
受講料に含まれないもの：会場までの交通費。また、必要に応じて実習に要する実費を別途徴収する。

10. 実施方法 （1）期 間 令和7年6月13日（金）～11月15日（土）
第1週：6/13-15、第2週：7/4-6、第3週：7/25-27、第4週：8/22-24、
第5週：9/12-14、第6週：10/3-5、第7週：10/24-26、第8週：11/14-16（全8週）
＊11/16は予備日（台風、地震などの災害により開講できない日程があった場合に利用）。
＊修了者を対象にフォローアップ研修を3月に開催する予定。
※各週とも原則として金曜：19時から22時、土曜：9時から19時、日曜：9時から17時を
講義時間とする予定。ただし別途課題や、講義に関連するグループワークが課される。

（2）場 所 味の素ナショナルトレーニングセンター・ウエスト ほか
＊一部リモートで講義を実施する場合がある

（3）宿 泊 講習期間中は、本会が提供する宿泊施設（味の素ナショナルトレーニングセンター・ウエスト、あるいはその近隣の宿泊施設を予定）を利用する

（4）その他 受講年度内に全課程修了することを原則とする

11. カリキュラムとその狙い（予定）

[A] スポーツリーダーとして持つべき基礎知識（10コマ）
スポーツリーダーに不可欠な、スポーツ／スポーツ組織に関する基礎知識を学ぶ ・組織経営、マーケティング ・ジェンダーエクイティ ・SDG's
[B] 国際スポーツ界で活躍するために持つべき知識・スキル（10コマ）
国際戦略を立てる上で不可欠な、国際スポーツ／スポーツ組織に関する知見を学ぶ ・国際スポーツ組織 ・IF、AFにおける選挙 ・国際スポーツ分野におけるキャリア
[C] グローバルマインドセット（6コマ）
国際的な交流を持つ上でベースとなる、異文化や多様性を理解・受容するマインドを醸成する ・異文化理解力 ・マナー/プロトコル ・世界の宗教
[D] 国際スポーツリーダーの本質的条件となる考え方や意識（14コマ）
国際スポーツリーダーに必要な思考法、意識、行動特性、スキルについてアクティブに学ぶ ・論理的思考 ・戦略的思考 ・組織行動とリーダーシップ ・提案の技術

[E] 国際コミュニケーション演習（42 コマ）
国際スポーツの現場で必要となるコミュニケーション方法について、英語にてアクティブに学ぶ ・プレゼンテーション ・ネゴシエーション ・アサーティブコミュニケーション * 基礎的な英語力を向上させるための講座は提供していない
[F] アセスメント（修了試験）
講義への参加姿勢、受講レポート、講義に関連する課題を評価すると共に口頭試問を実施する。E の講義は授業全体を通して評価し、英文レポート点等を加える。それらの合計点にて修了判定を行う。

* カリキュラム内容は予告なく変更される場合がある

1 2. 説明会等日程

受講申し込み以降、以下の日程で説明会、アセスメント等が予定されている

3月28日(金) 第1回 受講説明会 12:20～ オンラインで実施
受講希望者を対象に、受講までに実施される語学力アセスメントの実施方法、スケジュール等について説明する。 * Web 会議システム Zoom にて行う。当日参加できない場合、説明会の録画を閲覧できる。
4月4日(金)～4月17日(木) 語学力アセスメント オンラインで実施
2種類の語学力アセスメントを実施し、受講者の語学力（英語コミュニケーション能力）を評価するスコア型英語 4 技能検定 GTEC、及び Web 会議システムを使ったアセッサーとの面談を予定している。
5月9日(金) 第2回 受講説明会 19:00～ 味の素ナショナルトレーニングセンター（予定）
受講決定者へ国際コミュニケーション演習教材を配布する。また、開講後の講義実施方法、講義室や宿泊施設の利用方法など、受講に際しての注意点を説明する。

1 3. その他

（1）本アカデミーのこれまでの成果と、今後目指すところ

本事業は、所属する国内スポーツ組織を代表して国際スポーツ組織等の政策決定過程に関与できる人材、国際的な折衝において活躍できる人材の育成を目的に平成 23 年度より開始し、これまでに 14 期を終了、受講者累計は 391 名となった。そしてアカデミー受講者・修了者の多くの方が国際スポーツ組織でのポスト獲得を果たし、IF においては 131 のポスト、AF においては 71 のポストに至っている¹。この数字に表れるように、国際スポーツ組織におけるポスト獲得については一定の成果を上げてきたといえる。

今後も、獲得したポストで国や地域の違いを超えて世界中の人々と協働し、信頼関係を構築し、そして影響力を発揮する人材を育成するアカデミーを目指していく。

（2）想定している受講対象者

近年は

- ・NF の外に職業を持ちながら、NF の国際業務を担当される方
- ・NF の外に職業を持ちながら、NF を代表して AF、IF の理事・委員・審判を務める方や、それを目指す方の受講が増えている。これは、企業に勤務され国際関係業務のご経験をお持ちの方に AF、IF の業務を委ねる例や、選手として活躍された方に豊富な海外経験を活かして AF、IF の業務を委ねる例などである。

¹ ポスト獲得数は令和 7 年 1 月現在の集計結果

また、NF の国際化を推進する NF 事務局の方々にはこれまで数多く受講いただいております、引き続き活用いただきたい。

（３）受講者推薦者に理解いただきたいこと

本事業は、「所属する国内スポーツ組織を代表して国際スポーツ組織において影響力を発揮し、所属組織のプレゼンスを高めることができる人材」の育成を目指しているため、カリキュラムの 50%以上を占めるプレゼンテーションやネゴシエーションのスキルを習得する演習は、ネイティブ講師が英語で提供している。

したがって、基礎的な英語によるコミュニケーション力（意見を述べたり、説明したり、計画を話すことができる力）をすでに身に着けていることが、育成目標に対して効果的な学びを得るための必要条件となる。受講者の推薦にあたってはこの点を十分にご注意いただきたい。

（４）託児施設

本事業の受講者は、ナショナルトレーニングセンター内にハイパフォーマンスセンターが設置した、シッターが保育する託児室を利用することができる（有料）。受入年齢は未就学児（0 歳から 6 歳）。利用日の 14 日前までに利用申込書を提出する必要がある、1 日あたり利用できる人数に上限があるなどいくつかの制限があることから、希望者は事前に事務局まで相談いただきたい。

以上

本件に関する問い合わせ先

（公財）日本オリンピック委員会 国際部 Tel: 03-6910-5956

JOC 国際人養成アカデミーディレクター相馬浩隆 Email: h-soma@joc.or.jp

*受講申込以前の、語学力アセスメントや講義内容等に関するお問い合わせも受け付けています



この活動は、スポーツ倶の助成金を受けて実施しています

カリキュラムの例（以下は令和6年度のもの）

カテゴリー			コマ数	合計 コマ数	科 目 名
	大分類	小分類	コマ数		科目名
A	スポーツリーダーとして 持つべき基礎知識 (基礎編)	オリビズム	2	10	オリンピック憲章とオリンピックアジェンダ2020+5
		インクルージョン/パラスポーツ	1		国際人として目指す豊かなスポーツ環境 ～パラスポーツを題材に～
		インクルージョン/ジェンダー	1		ジェンダー・エクイティ
		スポーツ政策(国内)	1		今後のスポーツ政策の展開について
		マーケティング	1		競技普及に繋がるNFマーケティングの考え方
		リーガル	1		国際スポーツ組織の決定、処分とスポーツ仲裁
		外交	1		スポーツ外交
		財務・会計	1		数字で組織を動かす ～明日から使える経営管理～
		競技力強化戦略	1		JOC選手強化中長期プロジェクト
B	国際スポーツリーダーとして 持つべき知見 (応用編)	競技会招致(国際)	1	10	日本の国際スポーツイベントの課題と未来
		カレントイシュー(国際)	2		諸外国のスポーツDXの動向と日本における課題
		ガバナンス(国際)	1		国際的動向にみるグッドガバナンスの本質
		サステナビリティ/社会課題解決	1		社会と未来と、そしてSDGs
		スポーツ産業(国際)	1		スポーツ産業の変化
		キャリア(国際)	1		国際人材へのプラン
	ケーススタディ (応用編)	IF/AF役員の活動(1)	1		国際人材のケーススタディ(IF/AF役員)
		IF/AF役員の活動(2)	1		国際人材のケーススタディ(国際競技役員、IF/AF理事)
		IF/AF役員の活動(3)	1		国際人材のケーススタディ(IF/AF役員、委員会委員)
C	グローバルマインドセット	マナー・プロトコール	1	6	国際スポーツイベントにおけるマナー・プロトコールの意義
		異文化理解	2		異文化理解力
		異文化理解(宗教)	1		世界の宗教概論
		異文化理解	1		日本と諸外国の文化の違い
		HRマネジメント	1		Cross-Cultural Management in Sports Business
D	国際人材の本質的条件となる 考え方、意識	思考力	4	14	ロジカル・シンキング&コミュニケーション
		思考力	3		戦略的思考 ～組織の目的、存在理由～
		思考力	2		Value Proposition ～価値ある提案の技術～
		リーダーシップ	3		リーダーシップとチーム行動
		リーダーシップ	2		組織を動かす力
E	国際コミュニケーション演習	Public Speaking	8	42	基礎演習
					Individual Presentation
		Global Teaming	7		基礎演習
					Motivate & Inspire people
		Essay Writing	2		基礎演習
					Essay Writing
		Assertive Communication	10		基礎演習
					Networking & Lobbying
		Negotiations	7		基礎演習
					Simulations
		Team Project	8		チームプロジェクト(事前準備)
					ファイナルプロジェクト(発表)